

としょかんのひとのおすすめ本

はるはあたらしいであいのきせつ。いろいろなであいとわかれが、こころのこるほんを、あつめました。



『わすれていいから』

おおもりひろこ ちょ かどかわ
大森裕子/著 KADOKAWA
しよしばんごう
書誌番号 006576783

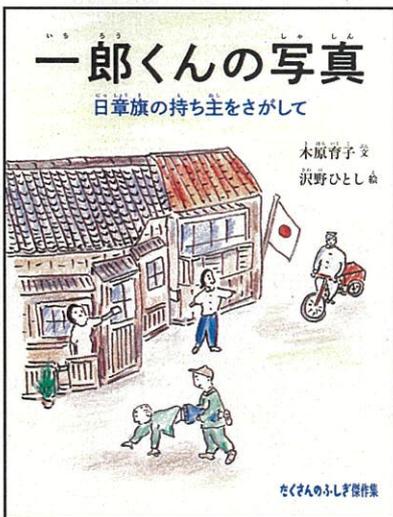
こねこがおうちにきたとき、おとこのこの「おまえ」はあかちゃんでした。スピードはちがうけど、いっしょにおおきくなりました。「おまえ」とおなじおうちにすめなくなっても、ずっとこころのどこかでいつもいっしょにいるよ。

『ヨシ-3万7千キロをおよいだウミガメのはなし-』

リン・コックス/文 リチャード・ジョーンズ/絵
いわじょう よしひと/訳 あすなる書房
しよしばんごう
書誌番号 006505911



ケガをしたたすけられたウミガメは、20年間をすいぞくかんですごします。およぐれんしゅうをして広い海へ。2年2か月かけて生まれたはまにたどりつきたまごをうみます。人とのよいであいと、自然の大きな力を感じることができます。



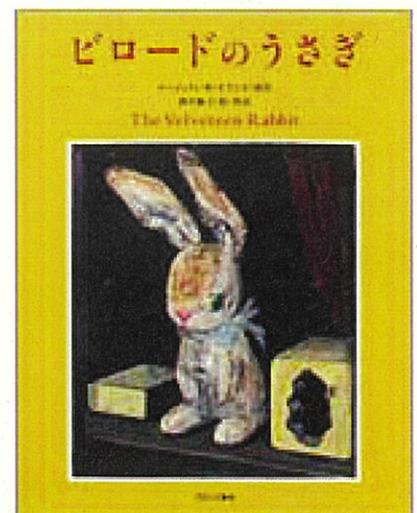
『一郎くんの写真-日章旗の持ち主をさがして-』

木原育子/文 沢野ひとし/絵 福音館書店
しよしばんごう
書誌番号 006712778

80年以上まえ、日本はせんそうをしました。へいたいさんがおまもりのようにしていた日章旗という「はた」のもちぬしはどんな人だったの？しんぶんきしゃさんがさがします。であってわかったのはせんそうは絶対にしてはいけないということ。

『ピロードのうさぎ』

マージェリィ・W・ピアンコ/原作 酒井駒子/絵・抄訳
ブロンズ新社 書誌番号 004399784



ぼうやととてもなかよくすごしていたおもちゃのピロードのうさぎ。ポロポロになってもいつもいっしょだったのに、あるひとつぜんおわかれのときが。でもほんとうにあいされたおもちゃはほんものになることができたのです。

さいごに、すてきなであいがまっていますよ。